

PRAEVIDENTIA DAILY (5月22日)

昨日までの世界：英景気好調でポンド続伸

昨日は、良好な英経済指標を受けたポンド続伸が顕著だったほか、前日に大きく下落していた豪ドル、NZドルや南アランドやトルコリラなどの新興国通貨がドル安を受けて大きく反発したのが特徴的だった。

ポンドは、英4月小売売上高が前月比+1.8%と市場予想(+0.5%)を大きく上回り、前月計数も上方修正されたことから、利上げの必要性が高まるとの期待から、ポンドが上昇、対ユーロではユーロ安もあって一時0.8086ポンドと年初来安値を大きく更新したほか、対ドルでも一時1.6921ドルへ上昇した。ユーロは、Gonzalez-Paramo元ECB理事がマイナス金利導入に肯定的な発言を行ったことがユーロ安要因となったようで、対ドルで一時1.3635ドルと先週の安値を下回った。

ドル/円は、本邦通関貿易収支は市場予想比赤字額が大きかったものの市場の反応は限定的で、むしろその後の日銀決定会合で、市場予想通りの追加緩和なしだったが、黒田総裁が記者会見で景気に関して全般的に強気の認識を示し、消費増税後の反動減も概ね想定内として、追加緩和の必要性を全く匂わせなかったことから、ドル/円は一時100.82円と101円を割り込み、2月安値(100.76円)に迫る水準へ下落した。もっとも、欧米時間には、米長期債利回りが丁度前日の低下分を取り返すかたちで持ち直したことから、101円台半ばへ反発、結果として前日終値対比では横ばいとなった。ロシアがウクライナ国境付近の軍隊を6月1日までに撤収させると発表したことも、地政学リスク後退と米長期債利回り上昇の一因になったとみられる。なお、FOMC議事要旨では将来的な出口政策が議論されたものの技術的な側面が強く、緩和スタンス継続も示されたことから、むしろ発表後はドルが弱含みとなっている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.02	+0.02	+0.01	+0.8	-0.2	+1.7	+0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	-0.1	+0.00	+0.00	+0.00	+0.05	+0.07	+0.02	+0.6	+0.8	+0.8	-0.14
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.4	+0.02	+0.03	+0.00	+0.01	+0.04	+0.02	+0.3	+0.8		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	-0.07	-0.07	+0.00	-0.08	-0.05	+0.02	+0.8	+0.8	+0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.0	-0.01	-0.00	+0.00	-0.04	-0.02	+0.02	+0.8	+0.8	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.0	-0.00	+0.00	+0.01	-0.00	+0.02	+0.02	+0.8	+1.7	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：SARB 据え置きはランド安

きょうの注目通貨：EUR↓、ZAR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
中国 5 月 HSBC 製造業 PMI 速報	10 : 45	48.1	48.3	
フランス 5 月 PMI 製造業・速報	16 : 00	51.2	51.0	
ドイツ 5 月 PMI 製造業・速報	16 : 30	54.1	54.0	
ユーロ圏 5 月 PMI コンポジット・速報	17 : 00	54.0	53.9	
同・製造業		53.4	53.2	
同・サービス業		53.1	53.0	
英 1Q GDP 改定値・前期比	17 : 30	+0.8%	+0.8%	前期は+0.7%
Linde スペイン中銀総裁発言	19 : 00			
カナダ 3 月小売売上・除く自動車・前月比	21 : 30	+0.6%	+0.3%	
米新規失業保険申請件数	21 : 30	29.7 万件	31.0 万件	
南ア SARB 金融政策決定	未定	5.50%	5.50%	前回発表時刻は 22 : 21
米 4 月中古住宅販売	23 : 00	459 万件	469 万件	
欧州議会選 (22-25 日)				

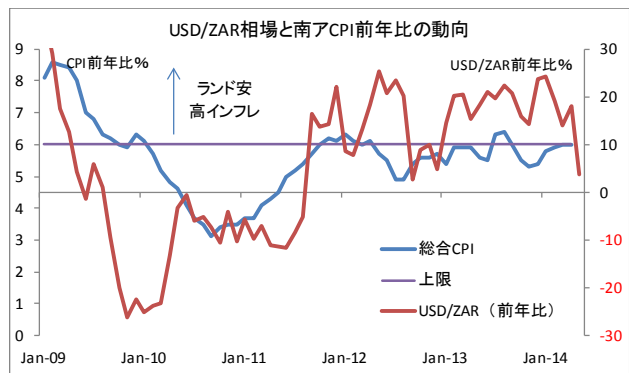
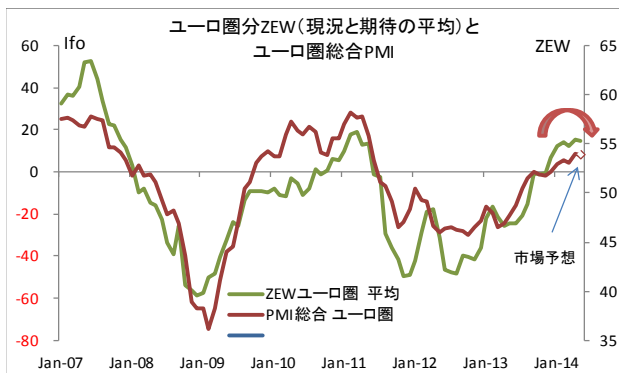
(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はユーロ圏 PMI 速報値と南ア準銀 (SARB) 金融政策決定が注目される。

ユーロ圏 PMI は、前月予想外に反発してユーロ買い材料となったが、昨年末以降は横ばい圏内の動きとなっており、昨年中続いたユーロ圏の非常に低い水準からの比較的速い回復が一服しつつある。こうした中、既に発表されているユーロ圏分の ZEW (期待指数と現況指数を平均) の小幅悪化と同様に、ユーロ圏総合 PMI も小幅悪化が予想されており (下図を参照)、こうした結果であれば ECB の次回 6 月会合での追加緩和期待を補強し、緩やかなユーロ売り材料になるとみられる。

南アでは、11 日の総選挙で与党 ANC が予想通りの勝利を収めた後ランドが堅調に推移していることはインフレ抑制要因であるものの (下図を参照)、昨日発表の南ア CPI は前年比+6.1%と市場予想を上回っただけでなく SARB のインフレ目標レンジ (3-6%) の上限を超えており、利上げの必要性が高まっている。事実、昨日市場予想を上回る CPI が発表された後、ランドはむしろ上昇しており、一部市場参加者が本日の利上げ確率の高まりを事前に織り込む動きをみせたようだ。とは言え、今回のコンセンサスは据置きで、予想通りだと SARB のインフレファイター度合いが疑われ、ランド反落に繋がるだろう。他方、利上げを行う場合には、一部に期待はあるもののコンセンサスではないことから、ランド続伸に繋がるとみられる。

ドル/円は、昨日の日銀決定会合後の下落でも 2 月安値を下回らず反発したことから、101 円台前半で動きにくい展開となるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641